

研究主題及び副主題

なりたい自分になるために学び続ける児童の育成
～肯定的・対話的な関わりによる教育課程の実践を通して～



棚倉町立棚倉小学校 (代表) 校長 藤田 篤

I 研究の構想

1 主題設定の理由

(1) 児童の学びの姿から

学級活動の授業で5年M子は、「学習で発表するという目標を決めてがんばった。間違えてもいいからやらないで後悔するよりやって後悔する方がいいと思って毎日努力した。何事にも逃げずにその事に向かっていく力が付いたと思う。これからも将来につながる力を付けていきたい。みんなが聞いてくれるからがんばれる。」と、キャリア・パスポートに振り返りを記述した。私たちは、M子の振り返りとの対話を通して、全ての児童が「今学んでいることは大事だ。将来に役立つこんな力が付くから。」と学びの価値を実感し、学び続けることができるようにしていくことを確認した。さらに、M子の学び続ける姿は、学級の肯定的・対話的な関わりの中で育まれていることに注視した。どんなに社会が変化しようとも、他者と協力・協働しながら学び続けることができる「一生ものの力」を育てていきたいと全教職員で共有し、令和4年度の研究をスタートさせた。

(2) 研究の経過から

棚倉町教育委員会方針のもとに、学習指導要領総則で述べられている特別活動を要としたキャリア教育の充実、社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成等を踏まえて、なりたい自分になるために学び続ける児童の育成を目指している。「子どものよさに目を向ける」を信念とし、キャリア教育の視点を生かした資質・能力の向上に取り組んできた。

前年度の研究において、特筆すべきは、学びの価値の実感と学力との相関を見ることができた点である。この成果は、目先の目的達成後に剥落する知の危険性等、教育課題の解決と学習指導要領前文が示している生涯にわたって学習のつながりを見通すことの具現化につながると考えている。

これらの成果を踏まえて、令和4年度はM子の学びの姿から新たに得た学び続けるための肯定的・対話的な関わりを基盤に、全児童のなりたい自分を実現したいと考えた。

2 研究主題及び副主題について

(1) 「なりたい自分」について

児童が学び続けるためには、夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得等、目標とする自分の姿を具体的に思い描くことが必要である。なぜなら、思い描いた自分の姿に近づくために努力した過程や結果で得た学びが、次の学びへの原動力につながるからである。そこで、「なりたい自分」を思い描いた目標とする自分の姿と捉える。なりたい自分の設定と実現においては、教師や児童同士の肯定的・対話的な関わりが重要な役割を果たすと考えるとともに、目標とする自分の姿は、授業一単位時間や1日の生活等短期的なものから、四半期、学年等中長期的なもの、中学校以降の進路や将来の夢にまで至ることを念頭に置く。

(2) 「学び続ける」について

中央教育審議会答申では、教科等を学ぶ本質的な意義の明確化、学習指導要領では、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることによる主体的・対話的で深い

学びの実現に向けた授業改善の重要性を挙げている。これらの趣旨は、キャリア教育との密接な関連を示すものであり、学び続けるためには、「P自己を知り目標を決める」「D個人、協働で実践する」「C振り返る」「A次の目標を決める」のPDCAサイクルの確立により、学ぶ価値を見出す指導の工夫が求められていると捉えた。そこで「学び続ける」とは、自己を知り、設定したなりたい自分の姿に近づくために個人や協働で実践し、その過程や結果で得た学びを振り返り、それらの学びをつないで次のなりたい自分へと、学びを連続させていこうとする態度とした。

(3) 「肯定的・対話的な関わり」について

学習指導要領においては、ガイダンスとカウンセリングの機能の充実、キャリア教育の手引きにおいては、日常生活の中での一人一人との対話を通じた個別支援の充実、さらに、生徒指導提要においては、個々の成長を促す指導の充実等を挙げている。全教職員が実践している「よさに目を向ける」教育の充実に向けて、これらの趣旨を踏まえ、「肯定的・対話的な関わり」を、児童一人一人の現状の把握を土台として、児童の思考やよさを受け止め、自覚していない思考やよさへの気づきを促す働きかけをしながら、児童自らに考えさせ、次の成長や発達につなげることを意識した関わりのこととした。「資質・能力は、教師や友達等の肯定的な対話を通して育まれる」という考え方を大切にしていく。

3 研究仮説

全ての教育活動における肯定的・対話的な関わりを基盤とし、設定した資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントを行い、特別活動を要としたキャリア教育の充実を図れば、なりたい自分になるために学び続ける児童を育成することができるであろう。

4 研究内容・方法

児童一人一人がなりたい自分になるために

学び続けている姿「～学びを通して、～姿に成長している」を集積し、児童の学びの姿から教育課程の有効性を検証、改善していく。

(1) 育てたい資質・能力の設定と四半期制評価サイクルの確立

育てたい資質・能力を設定して、児童を見取る視点を明確にし、肯定的・対話的な関わりを通して、資質・能力向上を図っていく。私たちが設定する資質・能力は、学習指導要領が目指すところと軸は同じであり、社会的・職業的自立に向けて必要な「基礎的・汎用的能力」と重なるものである。資質・能力は、学校経営ビジョンに示す児童の姿や各種調査等から、目の前の児童に育てたい力を各学年が3か月という四半期ごとに見直し設定する。各学年が設定した資質・能力をもとに、全ての児童がなりたい自分を意思決定できるよう教師や児童同士が肯定的・対話的に関わる。加えて、評価サイクルも四半期で回し、設定した資質・能力の達成状況、四半期の成果を全教職員で共有して、次に学びをつなぐ。

(2) 「ほめポイント」4つの化

各学年で設定した資質・能力を子どものレベルで具体化したものを「ほめポイント」として全教職員が共通理解し、認め、ほめ、育成すべき児童の姿とする。この「ほめポイント」が、非認知能力を育み、真の学力向上につながる重要な役割を担っていることは、ふくしま学力調査分析報告書からも確かである。

「ほめポイント」を数多く見取り、資質・能力を育成するために「見える化」「共有化」

「意識化」「強化」という4つの化で実践していく。加えて、児童の「ほめポイント」を通知表、三者面談等において家庭と共有するために、キャリア・パスポートを活用し、保護者からの肯定的・対話的な関わりを増やす。

(3) 設定した資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント

各学年が設定した資質・能力「ほめポイント」を育むために、四半期ごとカリキュラ

ム・マネジメントを行う。教科等横断的な視点で配列した単元や領域等は表にまとめ、「キャリア教育関連表」として各学年の廊下に掲示し、教師と児童が、「ほめポイント」と学びのつながりを繰り返し意識できるようにするとともに、児童が、教師や友達から「ほめポイント」を数多く見取られ、なりたいたい自分のPDCAサイクルを回せるよう、意図的・計画的・系統的につないで指導する。あわせて、四半期ごとに教育活動を点検、評価する。

(4) キャリア教育の視点を生かす授業改善

「この学習でこんな力を付けたい。」等と、児童が学びの価値を実感し、学びを連続させていくことができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。肯定的・対話的な関わりを基盤として、「授業づくり3つの柱（柱1「授業スタンダード」をもとに整理した5つの留意点。柱2単元や題材で学んでいることと他教科、社会生活等とのつながりの見通し。柱3「ほめポイント」の位置付け。）」を軸に、筑波大学教授藤田晃之氏が示している教科を通したキャリア教育の充実を図り、各教科等で育みたい資質・能力の育成を目指す。加えて、互見授業週間や一人1授業実践を意図的、計画的に設定し、専科担当の高いスキルや教師個々のよさ等を学び合い、自己の授業改善につなげる。

(5) 特別活動を要としたキャリア教育の充実

「特別活動を要とする」ためには、児童が学習や生活の見通しをもち、振り返ることを積み重ねながら、自己の成長を実感し学びをつなぐことができるよう教育活動全体を通したキャリア教育の充実が求められる。そこで、学校行事や町主催事業、地域人材等を活用した学習を意図的・計画的に行うとともに、教育活動全体を通した児童の学びを、キャリア教育の要である学級活動(3)で肯定的・対話的につなぎ、次のなりたいたい自分への意欲を高める。あわせて、児童のなりたいたい自分をキャ

リア・パスポートに累積し、学びが連続するように次の学年や中学校に確実に引き継ぐとともに、児童一人一人と対話するための大切なツールとして有効活用する。加えて、教師と児童、児童同士のよりよい関係づくりを醸成するための活動を教育課程に位置付け、意図的・計画的・系統的に実践する。

II 研究の実際

私たちは「資質・能力は、教師や友達等の肯定的な対話を通して育まれる」の考え方で、教育活動全体を通して取り組んできた。加えて、全教職員が安心して児童の前に立つことができるよう、棚倉町教育委員会に指導助言を仰ぎながら、キャリア・カウンセリングやカリキュラム・マネジメント等の校内研修（資料1）を積み重ねた。授業においても、担任及び専科担当が一人1授業、年間18授業に上る授業研究を行い、授業改善に努めた。ここでは、なりたいたい自分になるために学び続けた児童の姿をもとに、指導の実際を精選して紹介する。

1 各学年の実践

(1) 第1学年

第1四半期の資質・能力を「聞く力」と設定し、生活科、運動会、算数科等を配列（図1）し、学びをつないで指導した。

1学年は、前年度の教育課程編成において、幼稚園で身に付けた「聞く力」を入学直後につなげて育成することの有効性を確認していたため、第1四半期に「聞く力」を設定した。

生活科「がっこうだいすき」のインタビュー活動において、相手

第1学年		第1四半期キャリア教育関連表			
育てたい 資質・能力		人間関係形成・社会形成能力			
目指す姿		最後まで話を聞くことができる			
学習テーマ		「きく」に全集中！ゴールまで！！			
	月	4	5	6	
体行 験事		運動会			
つ く 学 級		・スタートダッシュの学級開き ・ルール確認 ・ハッピー＆ハッピーT ・学年集会			
教科				算数科 だしげん	
特別 活動		学級活動 おべんきょうを するときは？		学級活動 ありがとうと第2 四半期の目標	
生活 科		がっこう だいすき			
道徳 科		あいさつで げんきに (礼儀)		がっこう たんけん (感謝)	

図1 第1四半期キャリア教育関連表

の目を見て聞く姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。聞くとよく分かるという学びを運動会につなげ、最後まで話を聞く姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。さらに、算数科「たしざん」につなぎ、加法の意味理解を深めた。学年集会「第1四半期の振り返り」では、聞く力を身に付けた姿「ほめポイント」を称賛し、聞く力の価値について児童と共有した。

【担任の見取りによるK男の学びの姿】

K男は運動会練習で、話を最後まで聞いていなかったために行動できず、しょんぼりしていた。K男に、「どうしたの？」と問いかけると、「最後まで話を聞かなかったから・・・」と話した。自分の失敗に気付いたK男に「最後まで話を聞こうと思ったんだね。」と伝えた。翌日の練習で見せた教師の話を最後まで真剣に聞いて自信をもって取り組む姿「ほめポイント」を価値付けた。最後まで話を聞くことの大切さを学んだK男は、授業においても最後まで話を聞き、自分から手を挙げて発表することができる姿に成長している。

(2) 第2学年

第1四半期の資質・能力を「いつでもどこでもあいさつができ、時間を守る力」と設定し、学級活動、交通教室、生活科等を配列し、学びをつないで指導した。資料2

低学年ブロックの交通教室において、1年生のお手本になり交通ルールを守って歩く姿や、地域の方に挨拶する姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。その学びを生活科「はるだ！きょうから2年生」の学校案内につなぎ、1年生のお手本になって廊下の右側を歩く姿や時間通りに案内する姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。その力を運動会練習につなぎ、大成功の喜びを味わわせた。

【担任の見取りによるR男の学びの姿】

1年生の時は、泣きながら母親と登校して

きたR男が、進級してすぐの学年集会で第1四半期に育てたい力を知ると、翌日から登校班で登校できるようになった。学年で設定した資質・能力とR男の進級への意欲が重なった。登校班で登校してくるR男の姿を見取り「1年生のお手本ね。」と繰り返し価値付けた。家でもなりたい自分に近づくために努力していることを保護者から聞き、「1年生のお手本だね。いい力がついてるね。」と価値付けた。R男は、挨拶の声も大きくなり、みんなによりよい行動を呼びかける姿に成長している。資料3

(3) 第6学年

第2四半期の資質・能力を「自分のよさを発揮する力」と設定し、夏休み、学級活動、修学旅行、総合的な学習の時間等を配列し、学びをつないで指導した。資料4

第2四半期に位置付けている夏休み中においても、中学校との連携を図った学習計画表(資料6)を活用し、自分のよさを発揮して課題に取り組む姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。学級活動(2)「男子と女子、力を合わせて」では、男女共に協力して様々な課題を解決していこうとする実践意欲を高め、修学旅行につなげた。修学旅行では、先を見通す力等のよさを発揮して、班活動の計画を立てる姿等「ほめポイント」を見取り価値付け、当日への意欲を高めた。困っている児童には、本児のよさを伝えながら、解決方法を一緒に考えた。学年集会「修学旅行の振り返り」では、児童同士が見取った「ほめポイント」を共有し、今後の学校生活への意欲につなげた。第2四半期末の学級活動(3)「振り返りと第3四半期の目標」(資料7)において、教師の「価値付ける」「語るさせる」「つなぐ」といった肯定的・対話的な関わり(図2、図3)により、児童は、成長を自覚し主体的に目標を意思決定することができた。

【担任の見取りによるM子の学びの姿】

仲良しの友達が近くにいないと行動できないことが多かったM子が、修学旅行において班活動の計画を立てたり、見学場所に予約の連絡を取ったりする等、班のために自ら行動する姿が見られるようになった。その姿は学校生活全般にも広がり、誰かが困っていると寄り添って困り感を受け止め、解決策を考える等、自分から行動する力を高めた。縦割り清掃や登校班においても、M子のよさである優しさと自分から行動できる力を発揮し、1年生の面倒をよく見て、下級生から慕われる存在に成長している。**資料5**

(中略)
 T:C19さん、あなたが苦手だったって言ってたけど、関わってみてどうだった？
 C19:自分に自信がもてた。
 T:それは、どうして？自分に自信が出てきたって？はじめは苦手だったんだよね。
 C19:私は、人と関わることが苦手で、コミュニケーションできなかった。1年生とか...
 T:最初は、人と関わるとの苦手だったんだって。なんかさあ、C19さんって、すごく自分自身のことを見つめてるような気がしない？

価値付ける

語らせる

つなげる

図2 集団への肯定的・対話的な関わり

目標設定におけるC10への個別指導
 C10は、「宿題を終わらせる」という目標を設定していた。
 T:これね。C10さんは、自分で切り替える力というか、時間をうまく使うようになってるから。あなた、宿題早く終わると思うよ。
 C10:きのう、帰ってすぐにできました。
 T:できたのね。すごいじゃん。やる気が出てきた。
 C10:やる気が出てきた。

価値付ける

つなげる

語らせる

図3 個人への肯定的・対話的な関わり

(4) 第5学年

第3四半期の資質・能力を「困難なことでも失敗を恐れず最後まで取り組む力」と設定し、音楽会、算数科、学級活動等を配列し学びをつないで指導した。**資料8**

学級活動(3)で意思決定した音楽会の目標であるなりたい自分に近づくために、友達と協力して課題を解決しようとしている姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。第1、第2四半期に育んだ「協力・協働する力」や

「自己のよさを肯定する力」をつなぎ、一人では困難なことでも自分のよさを発揮し仲間と協力すればやり遂げることができるという経験を積み上げた。算数科では算数専科によるコース別指導を行い、粘り強く学習する姿を価値付けた。なりたい自分を目指して自己の学習スタイルに合ったコースを選び、生き生きと学ぶ児童の姿があった。教師の肯定的・対話的な関わりが自分で決めてやり遂げる力を育成した。これらの学びを冬休みの生活につなぎ、最後まで取り組む姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。

【担任の見取りによるT男の姿】

T男は、なりたい自分を「あきらめないでずっと前を見る自分」と設定し達成に向けてがんばった。総合的な学習の時間に、地域の農家さんから「農業は、特に算数が大事だ。」等、日頃の学習が将来いかに役立つかという話を聞いた。農業に興味をもっているT男は、その後、算数では学びを広げ深める「しみずコース」を選択し意欲的に学習するようになった。さらに、なりたい自分に向かってがんばろうと、友達のために意欲的に働く姿も見られるようになった。嫌なことがあると登校を渋りがちだったT男が、学校を休まなくなり、生き生きと生活する姿に成長している。**資料9**

以下の授業実践においても、自分の考えをもって粘り強く課題を解決する力を高めた。

【算数科 割合 しみずコース】 **資料10**

授業づくり3つの柱をもとに、日常生活の場面で割合を活用して判断する力の育成をねらって実践した。これまでの学びをつなぎ、数直線、図、言葉の式等、数学的な見方・考え方を働かせながら、粘り強く考えている姿等「ほめポイント」を見取り価値づけた。**図4**に見られるような「語らせる」「つなぐ」「復唱・肯定」といった肯定的・対話的な関わりを大切に課題解決へ導いた。加えて、誤答には、「ここまでは、学びをつなげて考え

C:「1(もとにする量)の場所がわからない。」
 C:「1の場所は分かるけど・・・」
 T:「困ってるよね。でも気付いている人もいるから、みんなで考えていこう。」
 C:「ええと、1は全体だから280ml。」
 T:「1は全体だから280ml。」
 C:「そのうちの20%だから・・・。」
 T:「そのうちの20%。」

図4 話し合いでの肯定的・対話的な関わり

ていて素晴らしいね。」等と「部分肯定」し、解決までのプロセスを丁寧に見取り、肯定的・対話的に関わる教師の姿があった。

(5) 第4学年

第3四半期の資質・能力を「自分が興味をもったことに、粘り強く取り組む力」と設定し、道徳科、理科、総合的な学習の時間等を配列し学びをつなぎ指導した。**資料11**

道徳科において、ふくしま道徳教育資料編「たいこの音」で粘り強く取り組んでいこうとする心情を養い、理科「とじこめた空気と水」では、「はてな？」をもとに実験し、改善点を考える姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。その学びを音楽会練習や毎日の自主学習**（資料13）**につなぎ、納得するまで取り組む姿等「ほめポイント」を価値付けた。高まった力を総合的な学習の時間「棚倉で働く人たち」の探究活動につなぎ、「はてな？」をもとに仕事のやりがい等について熱心にインタビューしたり追質問したりする姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。あわせて、以下の授業実践で働くことの良いことについて学びを深めた。

【総合的な学習の時間 棚倉で働く人たち】

授業づくり3つの柱を踏まえ、役場見学で学んだことをもとに、職業観や郷土愛を深め、5年生以降の

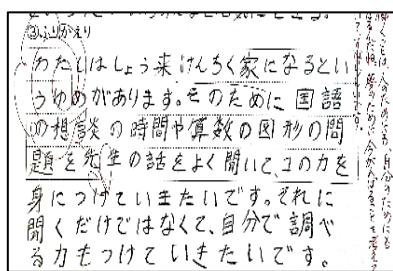


図5 児童のワークシート

学びにつながるよう実践した。児童の考え**（図5）**に丸を付けながら称賛し、一人一人の考えを肯定的**（図6）**に受け止めたことで、児童同士も互いの意見を尊重し、共感し合うことができた。児童が考えた「たくさんの人を笑顔にする」等の働くことの良いことを、今の学校生活や家庭生活につないだことで、今の学びが将来につながっていることに気付かせることができた。**資料14**



図6 児童の考えを受け止める様子

【担任の見取りによるS子の学びの姿】

S子は、実力はあるが進んで前に出るタイプではない。工夫した自学ノートを学年通信で紹介したことで、友達に称賛され、スケジュールプランナー（学習予定と連絡事項を記入するもの）を通して他の保護者にも称賛され、自信をつけた。宿題以外の学習に地道に取り組む、学級でただ一人、漢字、算数コンクールどちらも満点を取ることができた。音楽会でも楽器のオーディションに自ら挑戦する等、積極性を発揮する姿に成長している。**資料12**

(6) 第6学年

第3四半期の資質・能力を「あきらめずに取り組み、自己のさらなる成長を実感できる力」と設定し、総合的な学習の時間、町交流、学級活動等を配列し、学びをつないで指導した。**資料15**

総合的な学習の時間「地域の伝統を受け継ぐ人の考えに触れよう」では、失敗しても何度でも和太鼓練習に挑戦している姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。毎時間の振り返りでは、児童同士がよさを認め合い、改善点を出し合う等、さらなる成長に向けて主体的に話し合う姿を大いに称賛した。タブレット端末で個々と集団の成長を記録したことにより、児童が自覚していないよさに気付か

せることができた。高まった力を、持久走記録会、町交流学习等につなぎ、苦手なことでも自己の成長を目指しがんばる姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。

さらに、以下の授業実践において、これまで身に付けた力の価値に気付かせた。

【学級活動(3)よりよい自分へワンアップ】

授業づくり3つの柱をもとに、今身に付けている力や学びの価値に気づき、希望をもって中学校進学できるようにしたいと考え実践した。中学生やPTA会長さんから聞き取った小学生のうちに身に付けておきたい力とその根拠を提示したことで、児童はこれまで身に付けた力は、中学校や将来につながる力であり、中学校に向けてすでに日々準備をしていることに気付いた。児童は、今後の目標を意思決定し、「進学に不安をもっていたが、今までみたいに経験して力を付けていこうと思った。」等と振り返った。

資料16

(7) 第3学年

第4四半期の資質・能力を「自分のよさを理解して、自己の目標に意欲的に取り組む力」と設定し、体育科、総合的な学習の時間、国語科等を配列し学びをつなぎ指導した。

資料17

体育科「なわとび」では、あきらめない力等の自分のよさを生かして目標達成に向けて練習する姿等「ほめポイント」を見取り価値付けた。「やればできる」の経験を、総合的な学習の時間「南中ソーランを伝えよう」につなぎ、声をしっかりと出して踊る姿等、よさを発揮して取り組む姿「ほめポイント」を見取り価値付けた。国語科「わたしたちの学校じまん」では、タブレット端末を効果的に活用して調べたことをまとめる等、自分の得意を生かして学ぶ姿「ほめポイント」を見取り価値付けた。「キャリア教育」をテーマにプレゼンした班は、なりたい自分に近づぐためにみんなが力をつけるからいい教育だと発信した。配列した単元等に限らず、どの学び

においても「これは将来につながるね。」「こうすることでなりたい自分に近づけるね。」等と、今の学びと将来とのつながりを見通して、児童のよさを価値付けた。学級活動(3)「振り返りと3年生のまとめ」において、児童は「よさを生かし4年生でもがんばりたい。」と振り返り、次の3年生に手紙(図7)を書いた。

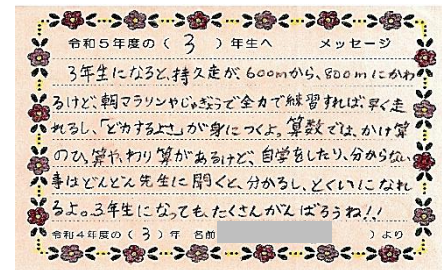


図7 次の3年生に書いた手紙

【担任の見取りによるY男の学びの姿】

Y男は、自分のよさよりも友達のよさを見つけ、認め、ほめることが得意である。帰りの会で、その日に見つけた友達のよさをみんなに伝えたり、自分を否定しがちな友達によさをアドバイスしたりしていた。「ありがとう。Y男さんから認められて〇さんは嬉しいよ。」と繰り返し価値付けると、Y男は友達のよさを見つけることが自分のよさだと気付いた。「見つけた友達のよさを自分の成長のために使って、新しいよさをつくりたい。」と、学びの連続性に気づき、実践しようとする姿に成長している。

資料18

Ⅲ 研究のまとめ

1 児童の変容

(1) 令和4年度町キャリア教育意識調査から

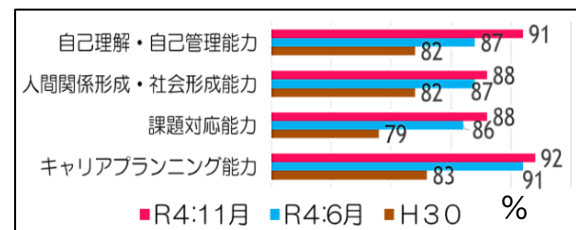


図8 町キャリア教育意識調査(児童 n195)

町が6月初めと11月末に、町内4校の4年生以上全児童を対象に紙面にて実施した(図8)。研究前の平成30年度と令和4年度を比較すると、4つの能力全てにおいて、

肯定的に回答した児童の割合が顕著に向上した。令和4年度6月と11月の比較においては、1～4ポイントの増加傾向が見られた。

肯定的に回答した児童の割合が特に高かった項目は、以下の2つである。

項目8 自分にはよいところがあると思う
項目12 何事も自分で考え、自分から取り組むことが大切だと思う

項目8では、肯定的に回答した児童の割合は、87%であり、平成30年度11月と比較すると16ポイントの増加、項目12では、95%であり、調査項目の見直しにより比較することはできないが、一定の高い水準と見ることができる。

これらは、児童のなりたい自分に肯定的・対話的に関わったことで、自分で考え決める経験を積み上げ、自己を肯定できるようになったためと考える。加えて、町事業や地域学校協働活動を通して、学び続ける大人たちの魅力に気付いたことも要因の一つと考える。

(2) 令和4年度Q-Uから

6月初めと11月末に全児童を対象に実施し、学校生活における満足度を把握した。結果(図9)を比較すると、12月調査では満足群が27人増え7ポイント増加した。侵害行為認知群においては、17人減り5ポイント減少した。

これらは、教育相談部による校内研修「Q-U作戦会議」や生徒指導主事を中心としたケース会議、学年主任を核とした学年会等、チーム支援方策の検討や全教職員の組織的アプローチ等が要因として考えられる。あわせて、教師、児童同士の肯定的・対話的な関わりを通して自分の思いを言葉にして伝えるこ

項目	R4:6月		R4:12月	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
満足群	279	71	306	78
非承認群	42	11	38	10
侵害行為認知群	42	11	25	6
学校生活不満足群	29	7	25	6

図9 Q-U6月児童 n392 12月児童 n394

とのよさや学級づくり活動(資料19)を通して友達との関わり方を学んだことが、侵害行為認知群の減少につながったと推察する。

(3) 第5学年の各種調査の結果より

キャリア教育を通して育む資質・能力と学力との関係について以下にまとめた。

令和4年度ふくしま学力調査において、学力を伸ばした児童の割合は、国語科 47.7% (県-4.8%)、算数科 65.9% (県+0.4%) であり、平均正答率は国語科 50.6% (県-4.6%)、算数科 59.8% (県-3%) であった。

約6か月後に実施した令和4年度11月町キャリア教育意識調査の学びの価値の実感に関する項目の結果は図10のとおりであった。

さらに、約6か月後に実施した令和5年度全国学力・学習状況調査の結果は、図11のとおりであった。国語科、算数科共に県平均を上回った。これらは、令和4年度のふくしま学力調査の結果を踏まえて、強みと弱みを分析し授業改善に努め、肯定的・対話的な関わりにより教科で育む資質・能力を育成したことで、児童の学びの価値の実感や学習意欲が向上し、学力向上につながったと考える。加えて、令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査「自分にはよいところがある」では、肯定的に回答した児童の割合は、93.5%であり、第7次福島県総合教育計画で

項目	割合(%)	6月との比較
国語の授業で学習したことは将来、社会にでたときに役に立つ	96	6ポイント増
算数の授業で学習したことは将来、社会にでたときに役に立つ	100	10ポイント増

図10 令和4年度町キャリア教育意識調査(児童 n51)

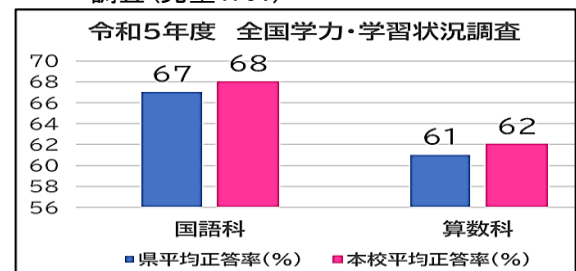


図11 令和5年度全国学力・学習状況調査(児童 n49)

目指している 100%に近づく結果であった。

(4) 児童自己評価と教師評価より

四半期の終わりに、全児童と学級担任が、設定した資質・能力の達成状況について評価した。児童はキャリア・パスポートを活用し、よさに目を向けるための肯定的な3段階評価を、教師は指導に生かすための4件法による評価をした(資料20)。図12のとおり、1年間の終わりの第4四半期に、児童、教師の肯定的な評価の割合が共に高まることから、各四半期で育てたい資質・能力を、年間を通して系統的に育成したことの有効性が伺える。

児童自己評価(%)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
3 よくできた	50	51	61	72
2 できた	41	43	35	25
1 少しできた	9	6	4	3
教師評価(%)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
4 そう思う	24	30	41	56
3 ややそう思う	53	56	52	39
2 あまり そう思わない	21	13	7	3
1 そう思わない	2	1	3	2

図12 四半期評価(児童 n394 教師 n19)

(5) 令和4年度学校評価から

12月に、全児童394名とその保護者、全職員を対象に実施した。全14項目のうち、児童、保護者が共に高い割合で肯定的な回答をしている4項目を精選して図13に示した。

これらは、全教職員が児童のなりたいたい自分に肯定的・対話的に関わったことにより、自己の表現を否定されない心理的な安全性が保証され、温かな学級の雰囲気醸成することができ、児童の目標達成への意欲を育てることができたためと考える。このような児童のよさを保護者自身が見取るとともに、通知表や三者面談等において共有できたことが保護者の評価につながったと考える。

項目	児童(%)	保護者(%)
学校や学級で楽しく過ごしている	94	97
目標をもって取り組んでいる	96	94
落ち着いて話を聞いている	92	95
先生方は親身に心配事の相談にのってくれる	96	97

図13 学校評価(児童 n394 保護者 n394)

2 研究の成果

(1) 育てたい資質・能力の設定と四半期制評

価サイクルの確立

四半期ごとに育てたい資質・能力を1つずつ、年間で4つ全ての能力を設定(資料23)できたことは、児童を見取る視点が明確となり、資質・能力育成に有効であった。資質・能力の設定においては、学校経営ビジョンで示す児童の姿を具現化するためにルーブリック規準表(資料22)を作成活用したことで、学校教育目標と学年が育成する資質・能力、児童が意思決定したなりたいたい自分が共に同じ軸となり、資質・能力を効果的に育むことができた。児童は、教師や児童同士の肯定的・対話的な関わりを通して、四半期という緊張感をもって主体的になりたいたい自分を意思決定できた。さらに、四半期ごとに成果を全教職員で共有したことは、指導力向上の研修の機会となり、児童の成長を振り返り、学びをつなぐために有効であった。加えて、系統的な指導の充実、レバレッジ効果等が確認できた。

(2) 「ほめポイント」4つの化

四半期ごとに設定した資質・能力「ほめポイント」を、教職員、児童、保護者等が同じ視点で見取るために「見える化」「共有化」したことで、常に「ほめポイント」を見取り育てようとする「意識化」が図られた。学年の創意工夫により児童同士が「ほめポイント」を伝え合う機会を設けたことは、資質・能力を「強化」することに留まらず、自己肯定感や学力の向上につながる有効な取組であった。四半期ごとにキャリア・パスポートを活用して「ほめポイント」を価値付けたり、通知表(資料21)や三者面談等において保護者と共有したりしたことは、教師と保護者が共に肯定的・対話的に関わる機会を増やし、児童の資質・能力の「強化」につながった。

(3) 設定した資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメント

四半期ごとにカリキュラム・マネジメントを行い、キャリア教育関連表を作成活用したことで、「ほめポイント」を意識したり、学

習への見通しをもったりすることができた。

キャリア教育関連表に、教師や児童が見取った「ほめポイント」を記入したことは、児童が成長を自覚したり、なりたい自分のPDCAサイクルを主体的に回したりすることにつながる有効な取組であった。学びを振り返る力も高まった（資料 24）。四半期末に、資質・能力の達成状況とあわせて、全教職員でキャリア教育関連表をもとにカリキュラム・マネジメントの有効性について振り返ったことで、学びをつなげることができた。

（4）キャリア教育の視点を生かす授業改善

学びのつながりや「ほめポイント」の位置付け等を重視した3つの柱（資料 25）をもとに主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に努めたことは、児童が学びの価値を実感し、学習意欲や自己マネジメント力を高め、各教科等で育みたい資質・能力を確実に身に付けることにつながる有効な取組であった。あわせて、「語らせる」「つなぐ」「復唱・肯定」「（解決のプロセスに寄り添う）部分肯定」等の肯定的・対話的な関わりは、主体的・対話的で深い学びの実現につながる大きな成果と考えている。加えて、授業研究会や互見授業等を意図的・計画的に設定したことは、互いのよさを学び合い、授業改善につながる取組となった。さらに、教科担任制やコース別指導等、児童の実態に合ったきめ細かな指導を充実したことは、学力向上に大きな効果をもたらした。

（5）特別活動を要としたキャリア教育の充実

教育活動全体を、設定した資質・能力「ほめポイント」でつなぎ、キャリア教育の充実を図ったことで、学級活動（3）において、個々と集団の成長を「価値付ける」「つなぐ」「語らせる」等の肯定的・対話的な関わりを実現することができた。児童が自己や集団の成長を自覚し、次のなりたい自分への意欲をもつ等、なりたい自分のPDCAサイクルを回すことができる有効な取組であった。地域

人材等を活用した学習においても、「ほめポイント」を明確にして行ったことで、児童のキャリア形成を促し、職業・勤労に対する見方・考え方を広げることができた。

加えて、なりたい自分になるための大事な学びの記録であるキャリア・パスポートを、児童理解を深め、学びをつなぐためのツールとして、新担任や中学校につないだことで、なめらかな接続につながった。さらに、学級づくりの時間（資料 19）を教育課程に位置付けて共通実践したことは、児童の多くが「友達といい関係をつくるための方法がわかった。」等と振り返る有効な取組であった。

3 研究の課題と今後の見通し

本研究を通して見えてきた課題は、①全ての教師が実践できるための肯定的・対話的な関わりの技法の習得、②各教科等で育みたい資質・能力とキャリア教育で育みたい資質・能力の重なりが大きい単元や領域等の洗い出し、③設定した資質・能力をより意識して育成するためのカリキュラム・マネジメント、④卒業までに身に付けさせたい資質・能力を踏まえたルーブリック規準表の見直しである。本校職員の強みは、経験年数に関係なく児童のよさを語る教育愛、課題解決に向けた協働性と向上心、そして最も誇れる組織力である。これらの強みをフルに生かして、全ての児童のなりたい自分のために課題解決を目指したい。

以下は、3年生児童が縦割り清掃班の6年生に書いた手紙である。

Hさんのいいところは、掃除のやり方が分からないうちに優しく教えてくれるし、列がずれていたなら優しく注意して直してくれるのが、いいところです。あと、掃除の時間が過ぎても、やり残しがあったらやってくれるし、本当にすごいと思いました。私も高学年になったら、優しく教えたいです。

肯定的・対話的に関わり、「よさに目を向ける」教育が、児童にも具現化された姿である。次年度も児童一人一人のなりたい自分に、肯定的・対話的に寄り添い、学び続けることができる「一生ものの力」を育てていきたい。

校内研修資料「キャリア・カウンセリング」

～キャリア・パスポートを活用した肯定的・対話的な関わり～

資料1

キャリア・パスポートを活用し、肯定的・対話的に関わる2 「ほめポイント」を伝える視点と文例

1 自己の経験を肯定的に捉え直すことができるメッセージ

児童の振り返り	先生からのメッセージ
漢字・算数コンクールの練習では、特に算数をがんばった。でも、本番では合格できなかった。残念だった。	算数コンクール、悔しかったね。でも、〇〇さんが自分で計画を立てて、毎日、自主学習ノートにがんばっていたことを、先生は覚えてます。あなたは、算数コンクールで、グリーンと成長しましたよ。

2 子どもが気づいていないよさや成長を伝えるメッセージ

児童の振り返り	先生からのメッセージ
委員会で、朝の仕事を先生に言われなくても、友だちと声をかけ合って、忘れずにできた。委員長として、責任をもってできた。	さすが委員長さん!でも、先生がもっとすばらしいなど思ったのは、同じ委員会の友だちが困っているときには助けたり、友だちの意見を取り入れたりしながら、全体のことを考えて取り組んでいた姿ですよ。

3 子どもが価値を置いていることをきっかけにして、さらなる自己理解へつなげるメッセージ

漢字コンクール前の児童の振り返り	先生からのメッセージ
昨日は久しぶりにバスケットボール部の練習がなかったの、B君と夕方まで遊んだ。夜は前々から楽しみにしていたテレビ番組を見ました。とても楽しかったです。	Aさんはいつも部活動ががんばっていますものね。部活動がないときに思いきり羽を伸ばせてよかったですね。ただ、漢字コンクール1週間前なので、先生は勉強もしてほしかったです。好きなバスケットボールに関わる仕事がしたいという大切な夢をかなえるために、思いきり勉強するのも必要ですね。持ち前の集中力と粘り強さを勉強でも発揮すれば、きっと夢にまた一歩近づくはずですよ。

児童の振り返り
・運動会では負けちゃって悔しかったけど最後までがんばった。
先生からのメッセージ
・悔しかったんだね。〇〇さんが気づいているように、最後まで走りぬきましたね。先生は、それ以上に、そのあきらめない力をかけ算九九や水泳の学習にもつなげ、粘り強くがんばる姿にとっても感動しました。

児童の振り返り
・毎日、登校班で行けるようになって、うれしかった。
先生からのメッセージ
・さすがです。自分で決めたことをがんばる〇〇さん、いいですね、でも、先生がもっといいと思ったことは、登校の時に班長さんの言うことをよく聞いて、町の人にもあいさつをしていた姿です。

児童の振り返り
・話合いては、自分から進んで話すことができた。
先生からのメッセージ
・目標に向かってがんばりましたね。ただ話すだけではなく、教室のみんなが分かるようにはっきりとした声で発表する力もついていますね。それ以上に、ペアの話合いては、友だちがドキドキしていることに気づいて、自分から先に話している姿を何度も見て、感心しました。

児童の振り返り
・苦手な教科を少し得意にすることができた。
先生からのメッセージ
・まず、先生がすごいと思ったことは、〇〇さんは自分の得意や苦手分かっているということです。苦手を得意にするために、友だちと積極的に考えを交流したり、ノートを見やすくまとめたりしていましたね。もっと、成長を感じたことは、目標に向かってがんばる力を、自分で学習の計画を考えて取り組むことにつなげていた姿です。

<参考資料>
文部科学省 国立教育政策研究所「語る語らせる語り合わせるで変える!キャリア教育」
広島県教育委員会「キャリア・ログ」

資料2

資料3

第2学年 第1四半期 キャリア教育関連表 ～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

2年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート ～なりたいたい自分になるためのPDCAサイクル～

第2学年 第1四半期キャリア教育関連表	
育てたい資質・能力	自己理解・自己管理能力
目指す姿	いつでもどこでもあいさつができ時間を守ることができる
学年テーマ	1年生のお手本になろう!
月	4 5 6
体験等	交通教室 避難訓練 運動会
学びの振り返り	スタートダッシュ学級開き ルール徹底 ハッピー&ハッピーT 異年齢交流
教科	QU
特別活動	学級活動 「約束を守って学習しよう」
生活	「はるだ! きょうから2年生」
道徳科	「学校たんけん」(親切・思いやり)

2年生 4～6月のめあて

1年生のお手本になろう!

目標の全体の振り返り

まあまあできた	できた	とてもできた
1	2	3

振り返り (できたこと・がんばったこと)

おうちの人から

いろいろなことができるようになったらいいな。2年生の学年テーマのあいさつはうか? これからも学校生活を楽しんでほしいです。

先生から

学級の生活を見えないところの、あなたの力をあつたから、できるようになったんですね。がんばっています。そして、1四半期のお手本が果たされました。先生はとってもうれしいです。2年生は2年生らしく、がんばっていきましょう。がんばることができるといいですね、がんばってください!!!

4がつ (笑顔)

5がつ (笑顔)

6がつ (笑顔)

資料4

第6学年 第2四半期 キャリア教育関連表
～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第6学年 第2四半期キャリア教育関連表				
育てたい 資質・能力	自己理解・自己管理能力			
目指す姿	これまでの様々な経験を生かし、 自分のよさを発揮することができる			
学年テーマ	発揮しよう！自分の力！			
	月	7	8	9
体行 験事		夏休み	修学旅行	
づ くり	学級	・ルール確認(時間管理) ・1年生のお手伝い ・朝清掃 ・学年集会		
教科		体育科 水泳		学級活動 自分の役割って 何だろう
特別 活動		学級活動 男子と女子、 力を合わせて		学級活動 振り返りと第3 四半期の目標
総合				チャレキッズ
道徳 科			道徳科 いらなくなった きまり	

資料5

6年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート
～なりたいたい自分になるためのPDCAサイクル～
～周囲に友達からのメッセージも添えられた

(6)年生 7～9月のめあて

学年テーマ
発揮しよう！自分の力！

自分の目標
学習では分からない問題でも！図解して自分の考えをもつ。
生活では、持ってきた手紙は自分で配ったり、時間を見て行きたりできるようにする。
チャレキッズでは、自分から疑問に思ったことを質問する。
家庭学習では、自分から宿題をやったり、自分の苦手な勉強をやる。

疑問に思ったことは質問する。自分から疑問に思ったことを質問する。

みんなに聞けたかな

7月(3) 1つ上げるために
自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。

8月(3) 1つ上げるために
自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。

9月(3) 1つ上げるために
持ってきた手紙を自分で配ること外でできた。

自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。

目標の全体を振り返り

まあまあできた	できた	とてもできた
1	2	③

振り返りにできたこと、がんばったこと
自分で持ってきた手紙や算数の問題をやらせたり、持ってきた手紙を自分で配ったりすること外でできた。

お家の人から
自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。

先月から行ってきたこと、自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。

先月から行ってきたこと、自分から宿題をやったり、苦手な勉強を自分でやること外でできた。

第6学年 第2四半期 夏休み学習計画表

～夏休みもなりたいたい自分になるために、中学校との連携を図った学習計画表を作成活用～
／で消したり、✓を入れたりして、終わったことを見える化したことが、計画的に学習するためのポイント

資料6

夏休み学習計画表

夏休みの学習計画：目標
宿題を言いついで早めに終わらせる。8月15日までに。

国語	算数	理科	社会	英語	見聞作文 or 読書感想文	理科自由研究 or 園エココンクール	ふくしまっ子ご飯コンテスト	その他	自主学習	整理すること 持ち物
①	⑬	①	①	①	スタート!!! 7月25日	スタート!!! 7月25日	スタート!!! 7月26日	十七字のふれあい	古本	筆入れの中身をそろえる
②	⑭	②	②	②	本読む	写真	買物	南島き	水の恵り	お道具箱の中身掃除・ほじゆう
③	⑮	③	③	③	文章録	写真	買物	南島き	天竺の回	絵の具パック
④	⑯	④	④	④	見直し	資料作り	買物	南島き	BC	掃除・絵の具ほじゆう
⑤	⑰	⑤	⑤	⑤	訂正	資料作り	買物	元気っ子		習字セットの整理
⑥	⑱	⑥	⑥	⑥	完成!!! 7月25日	完成!!! 7月30日	完成!!! 7月26日	元気っ子		ぞうきん2枚
⑦	⑲	⑦	⑦	⑦				元気っ子		深字算数コンクール合格証
⑧	⑳	⑧	⑧	⑧				鼓笛の練習		健康チェックカード
⑨	㉑	⑨	⑨	⑨				鼓笛の練習		夏休みの課題
⑩	㉒	⑩	⑩	⑩				鼓笛の練習		スケジュールプランナー
⑪	㉓	⑪	⑪	⑪				鼓笛の練習		運動着・紅白帽子
⑫	㉔	⑫	⑫	⑫				鼓笛の練習		マスク・歯ブラシ・コップ
⑬	㉕	⑬	⑬	⑬				鼓笛の練習		国語・算数 修学旅行のおしり
⑭	㉖	⑭	⑭	⑭				鼓笛の練習		筆記用具・タブレット
								鼓笛の練習		お道具箱(机の中身)

～夏休みの過ごし方をふりかえろう～ 第②四半期の学年スローガン「発揮しよう！自分の力」(自己理解・自己管理能力)
ドリルを早めに終わらせて、他の言葉集は日寺間をわけてできた。
なので、1日早い4日に終わらせることができた。既読の成果報告書、お疲れ様!!
自分の力を発揮できたわ!!

学級活動(3)棚小モデル
「振り返りと第○四半期の目標」

<p>棚小モデル</p> <p>学級活動略案（振り返りと目標設定）</p> <p>＜実施時期＞ 第1末～第2初、第2末～第3初、第3末～第4初</p> <p>1 題材名 「振り返りと第○四半期の目標を決めよう」</p> <p>2 本時の指導 (1) 目標 自分や友達のよさを全体で共有し、目標達成に向けて努力してきたことを振り返ることを通して、次の四半期の目標を決めて、学校生活への希望や目標をもつことができる。</p> <p>(2) 第○四半期の賞賛・能力を育てるためのほめポイント</p> <p>(3) 展開</p>	<p>※評価</p> <p>○ 事前に行った自己評価と第○四半期のほめポイント（写真等があるよ！）を提示し、目標に向かって前向きに取り組んできたことを想起させ、本時への学習意欲を高める。</p> <p>○ 事前に、キャリア・パスポートの「最後の月」と「全体の振り返り」を記述させておいたり、毎日ちよこちよこ振り返りしておくと、児童の美態に合った導入がしやすく、大事な目標設定に時間がかかられる。</p>
<p>学習活動・内容</p> <p>1 第○四半期のめあてについて振り返り、学習課題を確認する。 (例) がんばったことを振り返り、これからがんばらばよくなることを決めよう。</p>	<p>○ キャリア・パスポートをもとに目標に向かってがんばってきたことを共有するとともに、次の四半期にがんばりたいことをみながら話し合うことで、次の目標であるのびのび自分をイメージすることができるようになる。</p> <p>○ 次の目標を記述している児童のキャリア・パスポートに○をつけたり励ましたりすることで、粘り強く考えることができるようになる。</p> <p>○ 児童のやりたい自分が実態と合うように肯定的、対話的に聞かるとともに、全体で交流することで、やりたい自分を見つめ直すことができるようになる。</p> <p>※ 次の四半期の目標を立てている。 (キャリア・パスポート、発表)</p> <p>○ これまで身に付けた力をつなげて次の力を身に付けていくことは自己の成長につながることを（具体的な場面等）伝えることで、実践意欲を高める。</p>
<p>2 課題を解決する。 (1) めあてに向かってがんばってきたことを振り返り、次の目標について話し合う。 (2) なりたい自分を考える。 (3) なりたい自分を見つめ直す。</p>	<p>○ 児童のやりたい自分が実態と合うように肯定的、対話的に聞かるとともに、全体で交流することで、やりたい自分を見つめ直すことができるようになる。</p> <p>※ 次の四半期の目標を立てている。 (キャリア・パスポート、発表)</p> <p>○ これまで身に付けた力をつなげて次の力を身に付けていくことは自己の成長につながることを（具体的な場面等）伝えることで、実践意欲を高める。</p>
<p>3 本時の振り返りを行う。 (1) なりたい自分を決める。 (2) ペアや全体で交流し、励まし合う。</p>	<p>○ これまで身に付けた力をつなげて次の力を身に付けていくことは自己の成長につながることを（具体的な場面等）伝えることで、実践意欲を高める。</p>

なりたい自分を意識決定したら、児童同士の肯定的な関わり（「いい目標だね」「○○ちゃんに合ってるね」、「一緒にがんばろう!」）等を促すことが大事。

第5学年 第3四半期 キャリア教育関連表
～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第5学年 第3四半期キャリア教育関連表				
育てたい 資質・能力	課題対応能力			
目指す姿	困難なことでも失敗を恐れず最後まで取り組むことができる			
学年テーマ	殻を破れ！自分の一歩を踏み出そう！！			
体験行事	10	11	12	
	音楽会	持久走記録会	冬休み	
ついでに 学級	ハッピー&ハッピーT 朝マラソン			
	新たな自分の一歩発見		新たな友達の一歩発見	
教科	音楽科 「わたしたちの表現 ルハン三世」	国語科 「やなせたかし アンパンマンの 勇気」	社会科 「これからの工業生 産とわたしたち」 算数科「割合」	
	後期係活動		学級活動	
特別活動	学級活動 「音楽会を成功させよう」		「冬休みの計画を立てよう」 「振り返りと目標設定」	
	棚倉町の工業			
総合	稲刈り・脱穀			
道徳	「働く幸せ チヨーク工場の 本田さん」			

5年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート
～なりたい自分になるためのPDCAサイクル～

(5)年生 10～12月のめあて

吉元 吉元を突破！自分の一歩を踏み出そう！！

自分の目標 <めくひよう 目標の全体の振り返り>

めくひよ	できた	とてもできた
1	2	3

振り返り(できたこと・がんばったこと)

お家の人から
行事はがんばる事が出来て目標達成できたけど、学校で休んだ事はあったから、1月は休まず、行こう！！

お父さん
1日、学校を休んで(ま、下から)おんいという気持ちになれたことは、心成長している証です。この気持ちを持ちながら、次の目標に向けてがんばっていきましょう。心が成長しています。

10月(3) 1つ上げるために音楽会
の練習がんばった

11月(3) 1つ上げるために持久走記録会がんばった

12月(1) 1つ上げるために学校が休んだ事があるけど、新しい目標達成できたから、がんばっています。

どんな自分になれたかな

第5学年コース別 算数科学習指導案				
日 時：12月9日（金）5校時 場 所：5年1組教室 指導者：				
1 単元名 「割合」				
2 単元の評価標準				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
① ある二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。	① 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、場面にあった比べ方を判断している。	① 二つの数量の関係に着目し、割合を用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。		
② 百分率の意味について理解し、百分率を用いて表すことができる。	② 日常生活の問題（活用問題）を、割合を活用して解決している。			
③ 比較量と基準量から割合を求めたり、基準量と割合から比較量を求めたり、比較量と割合から基準量を求めたりすることができる。				
3 単元計画（総時数12時間）				
時	学習活動・本時の目標	評価標準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	○割合を用いた二つの数量関係の比べ方を図や式を用いて説明することができる。	・知①（行動観察、ノート）	・思①（行動観察、発言、ノート）	・態①（行動観察、発言、ノート）
3 4	○百分率や歩合の意味とその表し方を理解する。	・知②（行動観察、ノート）		
5 本時	○比較量の求め方を説明することができる。 ○活用問題を解く。	・知③（行動観察、ノート）	・思②③（行動観察、発言、ノート）	
6	○基準量の求め方を説明することができる。 ○活用問題を解く。	・知③（行動観察、ノート）	・思④（行動観察、発言、ノート）	
7	○問題に取り組むことで、学習内容の定着を図る。	○知①（行動観察、ノート）	・思②（行動観察、発言、ノート）	
8 9	○和や差を含んだ割合の場合について、比較量を求めることができる。		○思②（行動観察、発言、ノート）	
10 11 12	○これまでの学習に関連して新たな問題を設定し、解決するとともに、統計的な問題解決の方法を理解する。	・知③（行動観察、ノート） ○知①②③（ワークテスト）	○思①②（行動観察、ノート）	

4 キャリア教育との関連			
(1) 第3四半期で育てたい資質・能力			
殻を破れ!!自分の一歩を踏み出そう!! (課題対応能力)			
(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導			
第3四半期では、困難なことでも失敗をおそれず最後まで取り組む力を育てるために、第2四半期で見つけた自分のよさを生かしながら、自分で決めたことを一つずつ達成し、やり遂げる力を高める。			
(3) 本単元での学びと将来とのつながり			
本単元で二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いることや百分率について学ぶことにより、日常生活の場面で割合を活用して判断する力を高めることを見通して指導する。			
5 本時の指導 (5/12)			
(1) 目標			
数や式と日常の具体的な場面を関連付けながら考えることで、比較量の求め方を説明することができる。			
(2) 展開			
学習活動	指導上の留意点	個への対応	※評価
1 問題場面を把握する。 (1) 問題を確認する。 果汁は何mLですか。 (2) 本時の課題をとらえ見通しもつ。 どうやって考えたいのかな。	○指導上の留意点 ○個への対応	○個への対応	※評価
2 課題を解決する。 (1) 自力解決をする。 (2) 全体で話し合う。	○ 日常の具体的な生活場面を取り上げることで、本時の学習への興味関心を高める。 ○ 問題場面を図に表し「果汁が20%含まれる」という言葉の意味や何を求めればよいかを理解することを通して、解決への見通しをもつことができるようにする。 ○ 数や式、言葉で自分の考えを表現している児童のノートに丸を付け称賛することで、粘り強く取り組めるようにする。 ○ 考えが進まない児童には、図に表すことで何を求める問題なのか分かるようにする。 ○ 数や式を用いて説明することを通して、比較量の求め方について理解を深めることができるようにする。		
3 本時の振り返りをする。 (1) まとめをする。 数や式に表すことで、何を求めればよいか分かるやすくなる。 (2) 学習感想を書く。	○ 数や式、言葉で自分の考えを表現している児童のノートに丸を付け称賛することで、粘り強く取り組めるようにする。 ○ 考えが進まない児童には、図に表すことで何を求める問題なのか分かるようにする。 ○ 数や式を用いて説明することを通して、比較量の求め方について理解を深めることができるようにする。 ○ 本時の学びが日常生活に生かされていることを問いかけることで、割合の考え方が生活につながっていることに気づくことができるようにする。		

今まで習ったどんな考え方が使えるか、様々な視点から考えている姿

数や式を用いて、考えを伝えている姿

資料11

第4学年 第3四半期 キャリア教育関連表
～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第4学年 第3四半期キャリア教育関連表				
育てたい資質・能力	課題対応能力			
目指す姿	自分が興味をもったことに、粘り強く納得するまで取り組むことができる			
学年テーマ	「はてな？」をプラス！納得するまで続けよう。			
月	10		11	12
	体験	終業式 始業式 音楽会	持久走記録会	冬休み
学習	・ルール確認 ・ハッピー＆ハッピーT ・異年齢交流			
教科	国語 みんな楽しく過ごすために 理科 とじこめた空気と水	漢字・算数 コンクール		
特別活動	学級活動 音楽会を成功させよう			
総合		「棚倉で働く人たち」 探究活動2 (役場見学、発表会)		
道徳	「たいこの音」 希望と勇気、努力と強い意志			

資料12

4年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート
～なりたい自分になるためのPDCAサイクル～

(4)年生 10～12月のめあて

学年テーマ 「はてな？」をプラス！ 納得するまで続けよう

自分の目標 <目標の全体の振り返り>

まほあできた	できた	とてもできた
1	2	3

振り返りにできたこと・がんばったこと

生活! 朝マラソンを朝月、行かためにじゅんびを速くする。

辞典とかで調べよう

音楽会でオーケストラで初めて打楽器をやったと練習してがんばった。

持久走で全力で走って糸内得点

漢字算数コンクール何回も自分で工夫して点を取った。

お家の人から何事もチャレンジして工夫して結果が出たようにうれしく

9月(2) 1つ上げるために朝マラソンをがんばりましたこれからは続けたいです。

11月(3) 1つ上げるために辞典を使

3がぶんは行きました!じゅんびを速く

お家の人から先生から花嫁さんが自分から本音で受け取ったことが先生もうれしかった。音楽も持久走も自学も決めたことしかりやり通す心の強さがあつた。自学の工夫。(お友だちも取り入れてくまね。

12月(3) 1つ上げるために分からない漢字があつた。国語辞典で意味を

しるやるとちゃんと覚えれるからこれからも続けたいです。

自己マネジメント力向上の取組 ～スケジュールプランナー(学習計画表)の活用～

- ・先を見通して自主学習の内容を決めて取り組む
- ・なりたい自分のPDCAサイクルを回す
- ・スケジュールプランナーから見取る児童のよさを日々の振り返りと学級活動(3)でつなぐ

上は4学年のもの。

下は5学年のもの。

高学年では、小中接続の観点で一週間を見通せる形式にしている。

日付	やること	評価	ふり返り	
10/12 水	音読		5-4-3-2-1	れんらく 明日は3校時です。
	読み上げ	⑦四捨五入 整数		
	宿題			家の人から
	自学			先生から
10/13 木	音読		5-4-3-2-1	れんらく 明日はろうかのワークスがけがあります。
	読み上げ	⑦		
	宿題			家の人から
	自学			先生から
10/14 金	音読		5-4-3-2-1	れんらく
	読み上げ	⑦		
	宿題			家の人から
	自学			先生から
今週のGood action ～自分のがんばりを ほめよう～ お休み中はアクションしたかな？くわしく教えてね！				

四年生 第三四半期の目標は「はてな？をプラス！納得するまでやりとげよう。」

第3四半期(10～12月) 「～殻を破れ！自分の一歩を踏み出そう！！～」						
週の計画(P)	月 日(月)	月 日(火)	月 日(水)	月 日(木)	月 日(金)	今週の振り返り(C) (よかったことや、自分をほめたいこと)
第3四半期のめざす自分 今週の当番	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	音読 宿題 自学	
今日のめあて(D)						
今日の大事な学校の予定(P)						来週がんばること(A)
(持ち物)						
帰ってからの予定(P)						1週間を振り返って先生から
今日の振り返り 今日のめあてや第3四半期の自分に対する振り返りを書こう						1週間を振り返ってお家の方
家の人から						連絡欄(家庭⇄学校)
先生から						

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案「棚倉で働く人たち」

資料14

<p>第4学年1組 総合的な学習の時間学習指導案</p> <p>日時：12月9日(金) 5校時 場所：4年1組教室 指導者</p>								
<p>1 単元名 「棚倉で働く人たち～棚倉町のために～」</p>								
<p>2 単元の評価規準</p> <table border="1"> <tr> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 棚倉町で働いている人たちが、棚倉町のために様々な工夫や努力をしていることに気付いている。 ○ 役場見学に向けて質問内容を精選したり、見学中の状況に合わせてメモの取り方を変えたりするなど、相手や場面に応じて適切に活動している。 ○ 棚倉町役場に勤めている人たちの仕事や自分たちの生活と関わっていることに気付いている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 役場見学での質問を、自分の関心をもとに、課題に沿った内容に決めている。 ○ 調べたことをもとに、棚倉町で働く人々と自分たちの生活を関連付けて考え、棚倉町や学校生活の中で自分たちができることについて考えたことをまとめ、表現している。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決に向けた自己の取り組みを振り返ることを通じて、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ○ 探究的な活動を通して、自分の考えをもつとともに、自分と違う友だちの考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ○ 棚倉町で働く人たちの仕事に対する思いについての探究活動の中で、自分にできることを見つけようとしている。 </td> </tr> </table>			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 棚倉町で働いている人たちが、棚倉町のために様々な工夫や努力をしていることに気付いている。 ○ 役場見学に向けて質問内容を精選したり、見学中の状況に合わせてメモの取り方を変えたりするなど、相手や場面に応じて適切に活動している。 ○ 棚倉町役場に勤めている人たちの仕事や自分たちの生活と関わっていることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 役場見学での質問を、自分の関心をもとに、課題に沿った内容に決めている。 ○ 調べたことをもとに、棚倉町で働く人々と自分たちの生活を関連付けて考え、棚倉町や学校生活の中で自分たちができることについて考えたことをまとめ、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決に向けた自己の取り組みを振り返ることを通じて、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ○ 探究的な活動を通して、自分の考えをもつとともに、自分と違う友だちの考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ○ 棚倉町で働く人たちの仕事に対する思いについての探究活動の中で、自分にできることを見つけようとしている。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 棚倉町で働いている人たちが、棚倉町のために様々な工夫や努力をしていることに気付いている。 ○ 役場見学に向けて質問内容を精選したり、見学中の状況に合わせてメモの取り方を変えたりするなど、相手や場面に応じて適切に活動している。 ○ 棚倉町役場に勤めている人たちの仕事や自分たちの生活と関わっていることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 役場見学での質問を、自分の関心をもとに、課題に沿った内容に決めている。 ○ 調べたことをもとに、棚倉町で働く人々と自分たちの生活を関連付けて考え、棚倉町や学校生活の中で自分たちができることについて考えたことをまとめ、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決に向けた自己の取り組みを振り返ることを通じて、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ○ 探究的な活動を通して、自分の考えをもつとともに、自分と違う友だちの考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ○ 棚倉町で働く人たちの仕事に対する思いについての探究活動の中で、自分にできることを見つけようとしている。 						
<p>3 単元計画(総時数63時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(課題設定) 子どもたちの「気づき」からの課題設定……………2時間 ・(探究活動1) 棚倉町で働く人の仕事内容……………12時間 ・(探究活動2) 棚倉町で働く人の思い……………19時間 ・ドリームマップ出張授業……………6時間 ・(探究活動3) 棚倉町のために自分たちができること……………14時間(11/14本時) ・(まとめと発表) 活動報告……………10時間 								
<p>4 キャリア教育との関連</p> <p>(1) 第3四半期で育てたい資質・能力</p> <p>「はてな？」をプラス！納得するまで続けよう。(課題対応能力)</p> <p>(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導</p> <p>第3四半期では、自分が興味をもったことに、粘り強く納得するまで取り組むことができる力を育てるために、漢字・算数コンクールや理科「とじこめた空気と水」等において、自ら課題を見つけたり、できるようにするための改善点を考えたりしながら繰り返し取り組む姿を見取り、称賛している。粘り強く課題と向き合い、自ら調べたり友だちと話し合ったりしながら解決することができるよう、意図的・計画的に指導している。</p> <p>(3) 本単元での学びと将来とのつながり</p> <p>本単元で職業観や郷土愛を深めることにより、5・6年生で行うチャレキッズを充実した体験活動につなげるとともに、働くことの喜びややりがいを見出しながら自分の将来について考えることができることを見通して指導する。</p>								

<p>5 本時の指導(11/14)</p> <p>(1) 目標</p> <p>役場見学で学んだことをもとにして、働くことよさについて考えることを通じて、職業観や郷土愛を深めることができる。</p>								
<p>(2) 展開</p> <table border="1"> <tr> <th>学習活動</th> <th>指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価</th> <th>第3四半期の資質・能力を育てるためのほめポイント</th> </tr> <tr> <td> <p>1 学習課題を確認する。</p> <p>働くことよさは、何だろう。</p> <p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) どの課で働いてみたいかを話し合う。</p> <p>① ワークシートに選んだ課とその理由を書く。</p> <p>② 考えを発表し合い、全体で共有する。</p> <p>(2) 働くことよさについて話し合う。</p> <p>① 自分の考えをもち、友だちと交流する。</p> <p>② 考えを発表し合い、全体で共有する。</p> <p>3 本時の振り返りを行う。</p> <p>(1) インタビュー動画を視聴し、感想をもつ。</p> <p>(2) 働くことよさについての自分の考えをまとめる。</p> </td> <td> <p>○ 年度当初の児童の職業観を提示することで、これまでの役場見学について振り返るとともに、本時への興味心を高める。</p> <p>○ 班ごとに作成した課のパンフレットを全体で確認し、各課の特徴やよさを共有することで、解決への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 自分が選んだ課の理由について記述してあるワークシートに丸を付け称賛することで、粘り強く取り組めるようにするとともに、発表への意欲を高める。</p> <p>◇ 困っている児童には、課のパンフレットから、働く人の心情に注目させることで、自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○ 児童一人一人の考えの根拠を引き出すことで、働くことに対する多様な考えに気付くことができるようにする。</p> <p>※ 働くことよさに気付くとともに、自分の将来について考えようとしている。(発表・ワークシート)</p> <p>○ 役場で働く保護者のインタビュー動画を視聴することを通して、働くことをより身近に感じるとともに、自分の将来について考えることができるようにする。</p> <p>○ 本時で働くことよさについて考えたことが、今後の学校生活や社会生活等に生かされることを伝えることで、学びのつながりに気付くことができるようにする。</p> </td> <td> <p>課題解決に向けて自分が納得するまで考えている姿</p> <p>自分の考えを表現したり、友だちの考えのよさに気付きながら真剣に聞いたりする姿</p> </td> </tr> </table>			学習活動	指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価	第3四半期の資質・能力を育てるためのほめポイント	<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>働くことよさは、何だろう。</p> <p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) どの課で働いてみたいかを話し合う。</p> <p>① ワークシートに選んだ課とその理由を書く。</p> <p>② 考えを発表し合い、全体で共有する。</p> <p>(2) 働くことよさについて話し合う。</p> <p>① 自分の考えをもち、友だちと交流する。</p> <p>② 考えを発表し合い、全体で共有する。</p> <p>3 本時の振り返りを行う。</p> <p>(1) インタビュー動画を視聴し、感想をもつ。</p> <p>(2) 働くことよさについての自分の考えをまとめる。</p>	<p>○ 年度当初の児童の職業観を提示することで、これまでの役場見学について振り返るとともに、本時への興味心を高める。</p> <p>○ 班ごとに作成した課のパンフレットを全体で確認し、各課の特徴やよさを共有することで、解決への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 自分が選んだ課の理由について記述してあるワークシートに丸を付け称賛することで、粘り強く取り組めるようにするとともに、発表への意欲を高める。</p> <p>◇ 困っている児童には、課のパンフレットから、働く人の心情に注目させることで、自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○ 児童一人一人の考えの根拠を引き出すことで、働くことに対する多様な考えに気付くことができるようにする。</p> <p>※ 働くことよさに気付くとともに、自分の将来について考えようとしている。(発表・ワークシート)</p> <p>○ 役場で働く保護者のインタビュー動画を視聴することを通して、働くことをより身近に感じるとともに、自分の将来について考えることができるようにする。</p> <p>○ 本時で働くことよさについて考えたことが、今後の学校生活や社会生活等に生かされることを伝えることで、学びのつながりに気付くことができるようにする。</p>	<p>課題解決に向けて自分が納得するまで考えている姿</p> <p>自分の考えを表現したり、友だちの考えのよさに気付きながら真剣に聞いたりする姿</p>
学習活動	指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価	第3四半期の資質・能力を育てるためのほめポイント						
<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>働くことよさは、何だろう。</p> <p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) どの課で働いてみたいかを話し合う。</p> <p>① ワークシートに選んだ課とその理由を書く。</p> <p>② 考えを発表し合い、全体で共有する。</p> <p>(2) 働くことよさについて話し合う。</p> <p>① 自分の考えをもち、友だちと交流する。</p> <p>② 考えを発表し合い、全体で共有する。</p> <p>3 本時の振り返りを行う。</p> <p>(1) インタビュー動画を視聴し、感想をもつ。</p> <p>(2) 働くことよさについての自分の考えをまとめる。</p>	<p>○ 年度当初の児童の職業観を提示することで、これまでの役場見学について振り返るとともに、本時への興味心を高める。</p> <p>○ 班ごとに作成した課のパンフレットを全体で確認し、各課の特徴やよさを共有することで、解決への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ 自分が選んだ課の理由について記述してあるワークシートに丸を付け称賛することで、粘り強く取り組めるようにするとともに、発表への意欲を高める。</p> <p>◇ 困っている児童には、課のパンフレットから、働く人の心情に注目させることで、自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○ 児童一人一人の考えの根拠を引き出すことで、働くことに対する多様な考えに気付くことができるようにする。</p> <p>※ 働くことよさに気付くとともに、自分の将来について考えようとしている。(発表・ワークシート)</p> <p>○ 役場で働く保護者のインタビュー動画を視聴することを通して、働くことをより身近に感じるとともに、自分の将来について考えることができるようにする。</p> <p>○ 本時で働くことよさについて考えたことが、今後の学校生活や社会生活等に生かされることを伝えることで、学びのつながりに気付くことができるようにする。</p>	<p>課題解決に向けて自分が納得するまで考えている姿</p> <p>自分の考えを表現したり、友だちの考えのよさに気付きながら真剣に聞いたりする姿</p>						

第6学年 第3四半期 キャリア教育関連表

資料15

～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

左は第3四半期の初めのもの。右は第3四半期終わりのもの。学びの足跡がみつまっている。

第6学年 第3四半期キャリア教育関連表				
育てたい資質・能力	課題対応能力			
目指す姿	苦手な学習や行事に対しても諦めずに取り組むことで、自己のさらなる成長を実感できるようにする。			
学年テーマ	失敗しても何度でも！ ～よりよい自分へワンアップ～			
月	10	11	12	
	音楽会	持久走記録会	町交流学习	
体験	・ルール確認(時間管理) ・1年生のお手伝い ・朝清掃			
学級づくり				
教科		体育科 体の動きを高める運動	国語科 みんなで楽しく過ごすために	
特別活動		学級活動 中学校へ向けて	学級活動 振り返りと第4四半期の目標	
総合	地域の伝統を受け継ぐ人の考えに触れよう(和太鼓)			
道徳科	誠実な人ー吉田松陰ー 正直、誠実			

第6学年 第3四半期キャリア教育関連シート

育てたい資質・能力 課題対応能力

目指す姿 苦手な学習や行事に対しても諦めずに取り組むことで、自己のさらなる成長を実感できるようにする。

学年テーマ 失敗しても何度でも！
～よりよい自分へワンアップ～

中途半端に終わらせないで最後まで頑張る。音楽会(全員)合格するまで練習する。自分なりの発表の仕方、分析、修正を繰り返して練習する。

伊藤君を含め、地域のみんなに現出の活動に音楽会にむけて練習して、練習の成果をみんなの前で発表する。

生活

お昼は1500円程度、自由に活動する。下級生に声をかけ、誰かを助ける。自然の人の力を活用して、みんなを見て成長。1年生～2年生まで、みんなが活躍する。実感できる。

青年の主張発表会

和歌山県青少年の主張発表会。参加した学生は、自分たちの意見を発表し、他の学生と意見を交換し、成長を促す。1年生の発表会も、同じように頑張る。

第6学年 学級活動(3) 「よりよい自分へワンアップ」

第6学年3組 学級活動(3) 学習指導案

日時：12月9日(金)5校時 場所：6年3組教室 指導者：東城 瞳

1 題材名 「よりよい自分へワンアップ」

2 キャリア教育との関連
(1) 第3四半期で育てたい資質・能力
失敗しても何度でも！～よりよい自分へワンアップ～(課題対応能力)

(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導
第3四半期では、自分の行動を振り返り、工夫改善を基盤として、国語科「みんなで楽しく過ごすために」や音楽会、持久走記録会等において、意図的・計画的に指導し、自己の成長を振り返り、次の活動に向けて工夫や改善をする姿を見取り称賞している。

(3) 本題材での学びと時来とのつながり
本題材で、様々な経験をする中で培ってきた力は、中学校そして自己の将来において、生きて働く大切な力である。卒業までの数か月間をどのように過ごすかにより、今後の学校生活や社会生活等において、よりよい自分になるために成長していくことができることを見通して指導する。

3 本時の指導 (1/1)

(1) 目標
目標達成に向けて努力してきたことを振り返ることを通して、中学校への進学を見据えながら、卒業までの数か月間をどのように過ごすかについて意思決定し、実践できるようにする。

(2) 展開

学習活動
1. 学習課題を確認する。
どこでもワンアップ！
中学校へ向けて、今から準備！

2. どんなことをがんばったかについて考え、意思決定する。
(1) 成長場面を振り返り、今後の見直しをもつ。

(2) 今後の目標を立てる。
・ペアや全体で交流

3. 本時の振り返りを行う。

第3四半期の資質・能力を育てるためのポイント

○指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価
○ 第3四半期の学年テーマを提示し、中学校生活に向けた準備期間がスタートすること共有することを通して、本時の学習への興味関心を高めることができるようにする。

○ 自分たちの成長場面を振り返ることを通して、様々な経験の中で培ってきた力は、中学校にもつながる大切な力であることを気付くことができるようにする。

○ 卒業まで残り数か月となった小学校生活に目を向け、今後の見直しをもたせること、目標であるなりたいたい自分について考えることができるようになる。

○ 教師または児童同士が肯定的・対話的に関わることを通して、なりたいたい自分の姿を前向きに検討し、意思決定すること、書き出せない児童には、なりたいたい自分についての具体的な場面を一緒に考えることを通して、意思決定すること、残りの学校生活をどのように過ごすかについて、残りの学校生活を意思決定している。

※ 残り学校生活をどのように過ごすかについて、残りの学校生活を意思決定している。(ワークシート・発表)

○ これまでの経験は、今後の自分をつくる大事な学びであること、自己の意欲を高める成長や目標達成に向けての意欲を高める。

中学校で必要とされる力と、これまでの自分たちの成長や高めてきた力を相互に結び付け、ワンアップし続けることに意欲を高める姿

中学校への進学を見据え、残された学校生活をどのように過ごすかについて、意欲を高め、意思決定している姿

資料17

第3学年 第4四半期 キャリア教育関連表
～学年フロアに掲示 学びを見直し振り返る～

第3学年		第4四半期	
育てたい資質・能力	キャリアプランニング能力		
目指す姿	自分のよさを理解して 自己の目標に意欲的に 取り組む やればできる！ やらなきゃできない！ よさを生かして 未来まで！		
学年テーマ	月 1 2 3		
体験行事	6年生を送る会		
学びの領域	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のルール確認 ・ハッピー&ハッピータイム ・異年齢交流 ・友達のいいところみつけ(サンサンキッズ) 		
教科	体育科 多様な動きを作る運動 なわとび記録会	国語科 わたしたちの学校じまん	漢字・算数 コンクール
特別活動	学級活動 6年生を送る会を成功させよう		学級活動 振り返りと3年生のまとめしよう
総合	探究活動 棚倉の食べ物 よさを発表しよう	南中ソーランを 伝えよう	
道徳科	「こまったときは おあいさま」(伝統文化の尊重・国や郷土を愛する態度)	「しんぱんは自分たちで」(公正、公平、社会正義)	「すきなことから高橋尚子物語」(希望と勇気、努力と強い意志)

資料18

3年生児童の学びの姿 キャリア・パスポート
～なりたいたい自分になるためのPDCAサイクル～

3年生 1～3月のめあて

学年テーマ
やればできる！ やらなきゃできないよさを生かして未来まで！

自分の目標 <目標の全体の振り返り>

まあまでできた	できた	とてもできた
1	2	3

次の学年で楽しみなこと
4年生になったら自分のよさを生かしてまためあてらしいよさを生かしてみんなのよさができるのが楽しみです。

自分のよさをやさしいところをいかしてえがおになれるようにがんばる。
えがおになれた友達にえがおを伝えることにチャレンジする。

どんな自分になれたかな
1つ上げるために

1月 1) かなりのよさを生かして、友達にえがおを伝えることにチャレンジすることができました。
2月 2) 南中ソーランをさいごまで楽しんで、南中ソーランをさいごまで楽しめたいと頑張りました。

3月 3) 先生からえがおをたくさん見せてくれて、友達にえがおを伝えることができた。友達にえがおを伝えることができた。自分自身、最後の最後まで頑張りました。日々の学習や水泳練習もがんばりました。友達にえがおを伝えることができた。自分自身、最後の最後まで頑張りました。日々の学習や水泳練習もがんばりました。

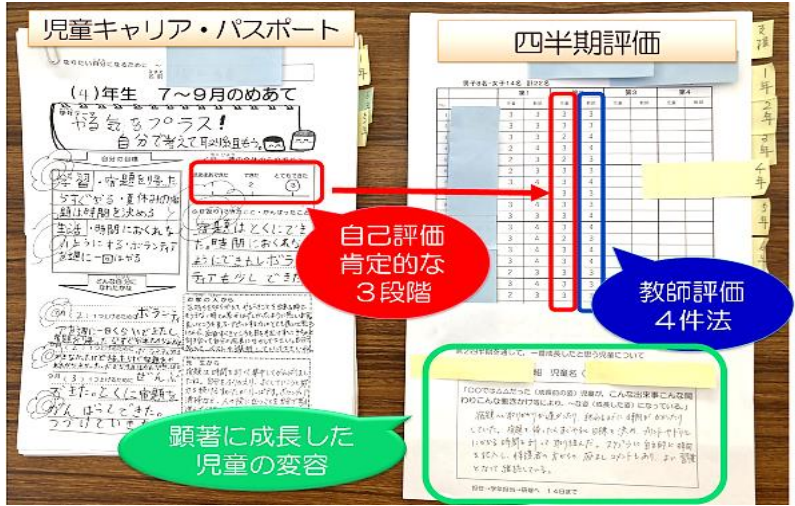
全校学級づくりの時間の計画

資料19

四半期末の評価を全教職員で共有

資料20

ハッピー＆ハッピータイム(全16回)活動計画				
1 キャリアとの関連				
・親和的な学級づくりのために、子どもたち一人一人が友だちとよりよい関係を築くスキルを育てるとともに、そのスキルを安心して発揮することができる学級集団を醸成する一助とする。 ・今年度の重点:肯定的、対話的に関わる力(=対立を仲裁できる力)の育成				
2 留意点				
・ハッピー＆ハッピータイムの名前の通り、体験を通して楽しく笑顔で行うながらスキルを身に付けることができるようにする。学年間で共通理解を図りながら行う。 ・活動後に振り返りの時間を確保し、子どもたちが感じたことや気づいたことを全体で共有し、深める。				
月	日	テーマ	内容	
4	18	①心の絆づくり	・あいさつリレーor積み木自己紹介 ・質問ジャンケン	
4	25	4月の振り返り	・サイコロトークで振り返り ・登場じゃじゃーん	
5	2	自分も相手もハッピーになる聴き方	・共感的、受容的に聴こう	
5	9	②心の絆づくり	・いいとこ見つけ!	
5	30	5月の振り返り	・サイコロトークで振り返り ・連想クイズ	
6	6	自分も相手もハッピーになる話し方	・3つの話し方を知ろう	
6	13	仲間の誘い方と入り方	・「一緒にやろう」「まげて」	
6	27	6月の振り返り	・サイコロトークで振り返り ・4つの窓	
7	11	③心の絆づくり	・パースデーチェーン	
8	29	8月の振り返り	・サイコロトークで振り返り ・質問じゃんけん	
9	12	上手な断り方	・ごめんね、〇なんだ	
10	3	困っている友だちには	・相手の困り感を聴こう	
10	17	④心の絆づくり	・新聞パズル	
10	24	10月の振り返り	・サイコロトークで振り返り ・山手線ゲーム	
11	7	ケンカの仲裁	・二人の気持ちをつなぐ橋渡し	
12	5	⑤心の絆づくり	宝物さがし	



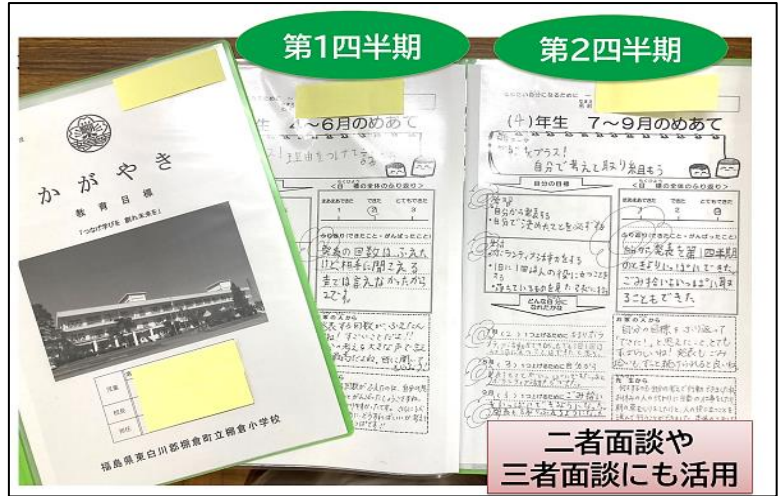
自己評価
肯定的な
3段階

教師評価
4件法

顕著に成長した
児童の変容

キャリア・パスポートの有効活用

資料21



第1四半期

第2四半期

二者面談や
三者面談にも活用

資料22

学校経営ビジョンのキャリア教育で目指す子どもの姿を具現化するルーブリック規準表

資質・能力	レベル	ゼロベース		レベル1	レベル2	レベル3
		習得以前	単独習得	複数組み立て	関連付け・発展・応用	
自己理解・自己管理能力	長所・短所の理解と個性の伸長を図る。	メタ認知	自己の長所・短所が分からない	自分の長所・短所が言える	自分の長所・短所を言え、得意なことを意識できる	自分の長所・短所を理解して、自分の得意分野を伸ばし、苦手を克服しようと努力できる
	規則正しい生活習慣を身につける。	自制心	自分自身の感情や欲望がコントロールできない	自分の感情によらず、あいさつができ、時間を守ることができる	自分の感情をコントロールし、あいさつ、集団ルールの遵守、規則正しい生活ができる	自分の感情や欲望をコントロールし、集団の中でルール遵守の規則正しい生活ができる
	自分に自信、自己肯定感を持つ。	自己肯定感	自分を肯定できず、自信がない	よいことをした時の気持ちよさに気づく	よいことをした自分を認め、自分を肯定できる	他者へ思いやりをもって接し、自己肯定感を高め、自信をもつことができる
	何ごとにも主体的に取り組む。	主体性	自分で決められない	自分の意思を表現できる	自分で考えて選んだり決めたりできる	自らやってみたり、自分で考えてみたいという気持ちで行動し充実感を得る
課題解決能力	自分で疑問を持ち、追求する。	探究心	疑問をもたない	興味関心を示すことができる	興味関心をもったことに、粘り強く納得いくまで取り組める	興味関心をもったことに、粘り強く、工夫しながら集中して最後まで取り組める
	困難なことでも失敗を恐れず最後まで取り組む。	挑戦意欲	難しいことには取り組まない	自分には難しいと思っても、取り組むことができる	失敗を恐れず、何ごと自分から取り組める	失敗してもめげず、何度でも意欲をもって取り組み、最後までやりとげる
	自分で工夫し学習・行動する。	創造力	工夫できない	自分なりの工夫ができる	学習や日常生活を、よりよくしようとする考えを基に行動できる	学習や日常生活で、自分で考えた効率的なやり方で行動できる
	自分の行動を評価、改善する。	問題解決力	自分を振り返ることができない	自分を振り返ることができる	自分を振り返り、次の行動を考えることができる	自分の行動を内省し、工夫改善できる
人間関係形成・社会形成能力	相手に分かりやすく考えを伝える。	伝える力	相手に分かるように話せない	自分の言葉で考えや気持ちを話すことができる	他者に自分の考えや気持ちが伝わるように理由をつけて話せる	他者に自分の考えや気持ちが分かりやすく伝わるように、言葉を選んで話せる
	先生や友達と対話ができる。	調整力	話を最後まで聴けない	話を最後まで静かに聴ける	疑問をもったり、自分の考えと比べながら聴くことができる	聴いた話に、質問や自分の意見を言える
	他者と協力・協働できる。	協調性	一緒に行動できない	一緒に行動できる	自分の考えを譲りながら、他者と協力できる	他者と折り合いをつけながら、協力、協働できる
	他者の個性を理解できる。	気づき	他者を責める	他者の良い行いが分かる	他者の良い行いを認め、感謝できる	他者の特徴を理解し、認め、許容できる
キャリア・プランニング能力	夢や目標に向かって努力する。	行動力	努力しない	目標をもって、行動できる	夢や目標のために、継続して努力できる	夢や目標達成のために、粘り強く努力できる
	計画的に物事を進める。	自立心	予定を立てられない	物事を進める順序が分かる	先を見通して、計画を立てて実行できる	他者任せにせず、計画的に、順序立てて修正しながら物事を進めることができる
	目標を持って、意欲的に取り組む。	意欲	目標をもてない	夢や目標をもてる	夢や目標をもって意欲的に取り組むとする	具体的な目標をもって、自分を理解しながら意欲的に取り組むことができる
	自己の役割、働く意義を理解する。	責任感	役割を果たせない	自分の当番を知り、自ら当番の仕事ができる	自分の役割を責任持って果たすことができる	自分の役割を責任持って果たし、役割を果たす充実感を感じることができる

四半期ごとに各学年が設定した資質・能力の一覧

年間を通して、4つ全ての能力を高めることにつながった。

目指す姿を分かりやすくおろした「学年テーマ」をもとに、児童はなりたい自分を意思決定した。

第1四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第1四半期 育てたい資質・能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	キャリア プランニング能力
目指す姿	自分の感情によらず あいさつができ 時間を守ることができる	最後まで話を 聞くことができる	いつでもどこでも あいさつができ 時間を守ることが できる	相手のよさに 気づくことが できる	自分の考えや気持ち が伝わるよう 理由をつけて 話すことができる	友だちと折り合いを つけながら 協力・協働すること ができる	6年生としての 役割を理解して 意欲的に取り組む ことができる
学年テーマ	何てだって 新学年 自分もみんなも 笑顔のスタート	「きく」に 全集中！ ゴールまで	1年生の お手本に なろう	相手の いいところを 発見しよう	ひとことプラス 理由をつけて 話そう	みんなで動こう One Team 5年	ゴールを イメージし 動こう
第2四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第2四半期 育てたい資質・能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力
目指す姿	自分よさや 友だちのよさを 進んで見つける ことができる	規則正しい 生活習慣を 身に付ける ことができる	自分の言葉で 考えや気持ちを 伝えることができる	自分のよさに気づく ことができる	自分で考えて、 選んだり決めたりして 行動することができる	友だちのよいところを 見つけたり、自分を 見つめ直したりして、 自分にはよいところが あると思うことができる	今までの様々な経験 を生かし、困難な課題に 対しても計画を立てて 自己管理することができる
学年テーマ	よいところに 目を向けて 自分もみんなも レベルアップ	「みる」ことに 全集中！ そこに気づき がある！！	伝えよう！ 自分の思いを！	見つけよう 自分のよさを 育てよう みんなのよさを	やる気をプラス！ 自分で考えて 取り組もう	大発明！ 大発見！ 自分の いいところ！	発揮しよう！ 自分の力！
第3四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第3四半期 育てたい資質・能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力
目指す姿	困難なことでも失敗 を恐れず、最後まで 取り組むことができる	困難なことでも失敗 を恐れず、最後まで 取り組むことができる	失敗してもめげず に、最後までやり遂 げることができる	自分のよさをいかし て何事も最後までや り遂げることができる	自分が興味をもった ことに、ねばり強く 納得するまで取り組 むことができる	困難なことでも失敗 を恐れず、最後まで 取り組むことができる	苦手な学習や行事に 対してもあきらめず 取り組むことで、自 己のさらなる成長 を実感できるように する
学年テーマ	レッツ トライ！ しっばいしても へっちゃらさ！	「やる」ことに 全集中！ あきらめないぞ！	さい最後まで あきらめないで やりとげよう！	やってみよう！ よさをいかして さいごまで	「はてな？」を プラス！ 納得するまで 続けよう	殻を破れ！ 自分の一歩を 踏み出そう！	失敗しても 何度でも！ よりよい自分へ ワンアップ
第4四半期							
学年	つくし・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
第4四半期 育てたい資質・能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	キャリア プランニング能力	人間関係形成・ 社会形成能力
目指す姿	夢の実現に向け て努力を継続す る	目標に向かって 意欲的に取り組 む	夢や目標をもっ て意欲的に取り 組む	自分のよさを理 解して自己の目 標に意欲的に取 り組む	自分の役割に責任 をもって果たすこ とができる	具体的な目標をも って自分を理解し ながら意欲的に取 り組み続ける	他者の特徴に 気付き、認め、 許容できる
学年テーマ	できるを 重ねて！ ステップアップ	「のびる」こと に全集中！ ちょうせんするぞ	3年生に むかって ステップアップ	やればできる やらなきゃできない よさを生かして 未来まで！	自覚をプラス！ 責任をもって やりとげよう	超覚醒 ～最高学年に 向けて最高の 準備を！～	どこまでも ワンアップ！ 中学校へ向けて 今から準備！

キャリア教育関連表を活用して学びを振り返る ～3年生～

教師だけではなく、児童も振り返りを記入。教育活動に参画する児童の姿が見られた。

4 キャリア教育との関連
(1) 第3四半期で育てたい資質・能力
 殻を破れ!! 自分の一歩を踏み出そう!! ～(課題対応能力)

(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等での指導
 第3四半期では、困難なことで失敗をおそれず最後まで取り組む力を育てるために、第2四半期で見つけた自分のよさを生かしながら、学習や持久走記録会等の行事において自分で決めたことを一つずつ達成し、やり遂げる力を高めている。失敗を恐れずに挑戦した姿やあきらめずに最後まで取り組む姿を見取り称賛している。特に社会科では、日本の産業において見出した課題を自分事として捉え、解決に向けた

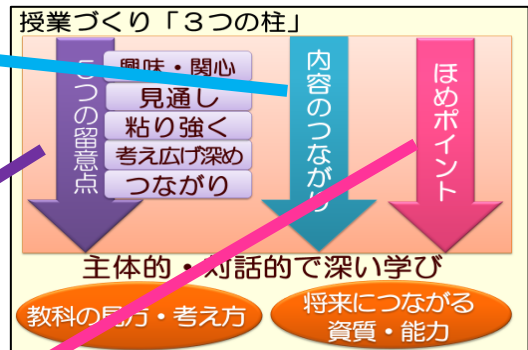
(3) 本単元での学びと将来とのつながり
 本単元でこれまでの学習を生かして日本の工業生産の課題をどのように解決していくかを考え、学ぶことにより、社会をより多角的に見つめ直し、課題を解決していく力を高めることを見通して指導する。

5 本時の指導 (5/5)
(1) 目標
 日本の工業生産の学習について振り返り、我が国の工業生産の特色についてまとめることを通して、これからの工業の発展について考えることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点 ◊個への対応 ※評価
1 問題場面を把握する。 これから日本の工業生産の課題を解決するにはどうすればよくなる?	○ 前時で学習した工業生産の課題と児童自身のこれからの生活とのつながりを示すことで、本時の学習への興味関心を高める。
見通し (資料や掲示物などから) ① 日本の工業生産のよさ ② 外国との関わりや貿易の様子 ③ 現在行われている取り組みの	○ 日本の工業生産の長所と短所を示すとともに見学学習で行った環境創造センターでの展示等を想起することを通して、解決への見通しをもつことができるようにする。
2 課題を解決する。 (1) 自力解決をする。 資料をもとに解決策を考える	○ 机指ししながら資料の読み方やアイデアのヒントを提示することで、具体的な解決策を粘り強く考えることができるようにする。 ◇ S児が自力解決できるように、前時の学習からヒントを示し、自分なりの考えをもつことができるようにする。
(2) グループで解決策を共有し、案をまとめる。 (3) 全体で話し合う。	○ 観点や視点ごとに児童の提案を黒板に整理し、日本の工業生産の課題について理解を深めることができるようにする。 【働かせたい社会的な見方・考え方】 日本の工業生産について日本の位置や環境、人々の相互関係等の視点で捉え、課題解決に向けて考えたり判断したりする。
3 本時の振り返りをする。 (1) まとめをする。 日本の工業生産がこれから発展していくためには、様々な考え方で工業のあり方を考えていく必要がある。 (2) 学習感想を書く。	※ 工業生産について学習したことを振り返り、工業生産の課題や解決策について考え、適切に表現している。(行動観察、発言、ノート) ○ 本時の学びを振り返り、今後の日本の工業生産について考えたことが数年後の選挙や、主権者としての姿につながっていくことに気付くことができるようにする。

授業づくり3つの柱を指導案にも位置付け、授業改善に取り組んだ。



【主な参考文献】

- 小学校学習指導要領 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- 小学校学習指導要領 特別活動編 文部科学省
- 小学校学習指導要領 算数編 文部科学省
- 小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 文部科学省
- 小学校キャリア教育の手引き 文部科学省
- キャリア教育フォービギナーズ 藤田 晃之
- 小学校だからこそ! キャリア教育! 世田谷区立尾山台小学校の挑戦 世田谷区立尾山台小学校 (編者) 長田 徹 (監修)
- 資質・能力を追うキャリア教育 キャリア教育の町「棚倉」の挑戦 棚倉町教育委員会・棚倉町立棚倉小学校 (著) 長田 徹 (監修)